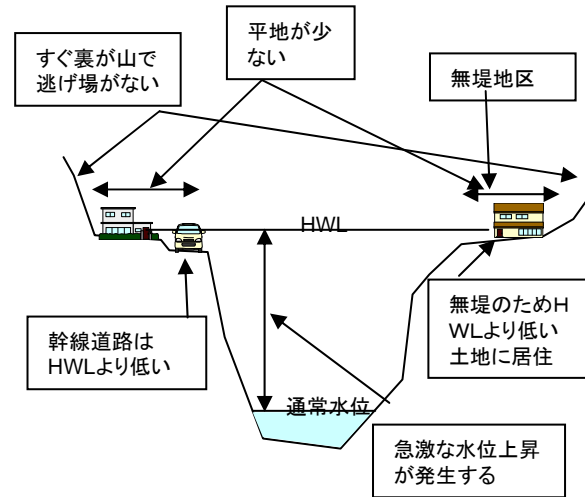
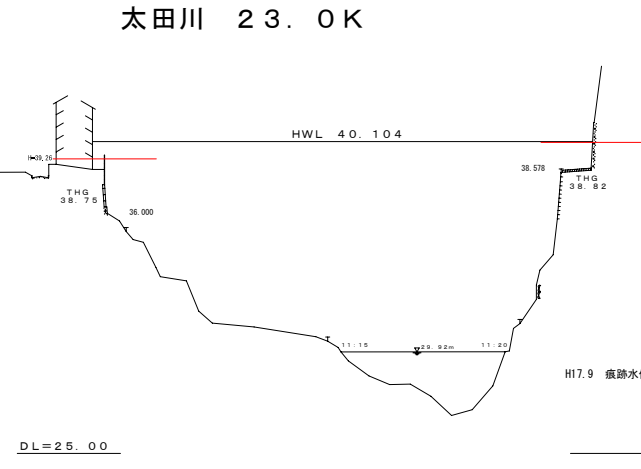


10.1 太田川中・上流部の地域特性と今回の洪水の特徴

10.中・上流部の床上浸水対策

太田川中・上流部の地形特性



逃げ場がない、逃げれない！

中国山地の渓谷部を流れるため、平地が少なく、水位の上昇とともに逃げ場がなくなる。山間狭隘部特有の水位上昇が急激に起こり、浸水による交通途絶が数多く発生するため、避難路に使用するには非常に危険になるとともに地域が孤立化。

被害箇所のほとんどが無堤地区。

太田川下流は、昭和18年、47年、平成17年と時代が新しくなるにつれて治水施設の整備により被害は減少。
しかし、中上流部では改修が実施されていない無堤地区が多く存在。

10.2 中・上流部における床上浸水対策について

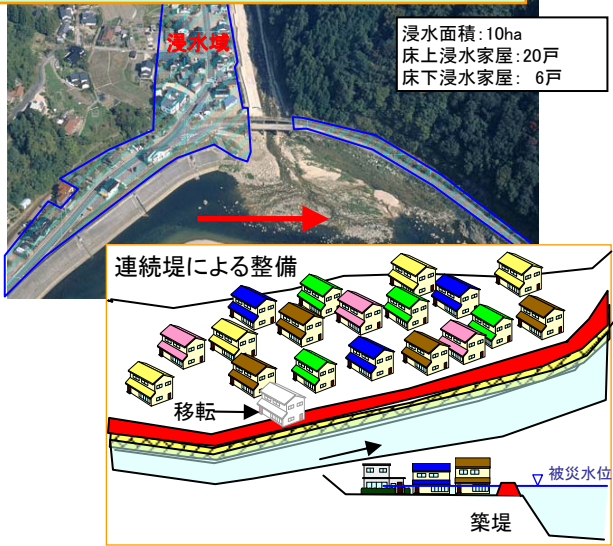
- 平成17年台風14号では、中・上流部において、河川沿いに浸水被害438棟、道路冠水による通行不能38箇所、施設被害35件などの被害が発生
- 被災箇所によっては、上下流を結ぶ主要道路も水没し孤立化、水防活動にも支障
- 地域毎の地形特性・居住形態に応じて、
 - ①連続堤の整備、②輪中堤の整備、③道路の嵩上げにあわせた宅地の嵩上げ等の対応

平成17年台風14号による被害状況



地形特性・居住形態に応じた対応イメージ

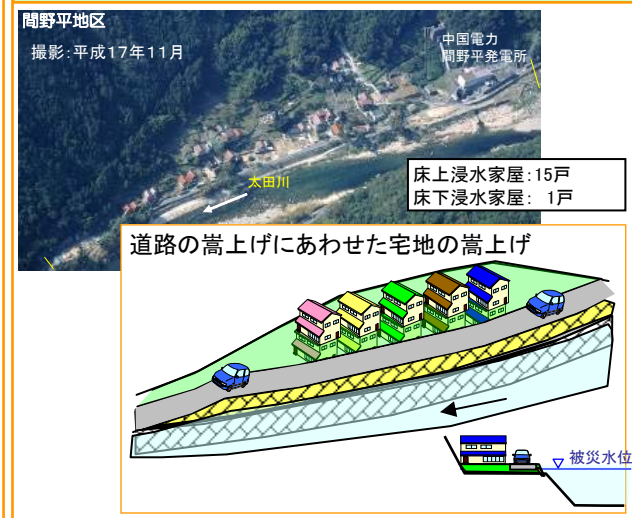
○河川沿いの平地に人家が連担している地区



○河川沿いの平地の一部に人家が立地している地区



○浸水が頻発している河川沿いの道路に隣接して人家が立地している地区



10.3 間野平地区(宅地嵩上げ)

10.中・上流部の床上浸水対策

- ・度重なる被災(昭和48年、平成11年、16年、17年)
- ・家屋の軒下に迫る高い浸水



右岸34k間野平地区

浸水深 3.2m

間野平地区

撮影:平成17年11月



背後にすぐ山が迫るため、
宅地嵩上げ整備
生活道路(避難経路)と一体となった整備

事業効果	
床上浸水家屋	15戸 → 0戸
床下浸水戸数	1戸 → 0戸
避難所の浸水	1戸 → 0戸
浸水区域の解消	

10.5 今井田地区(輪中堤の整備)

- ・昭和60年代以降に造成されS47災害の経験が無い
- ・計画高水位より低いためH17出水で被災(無堤部)



左岸23k200可部町今井田



浸水深 1.5m

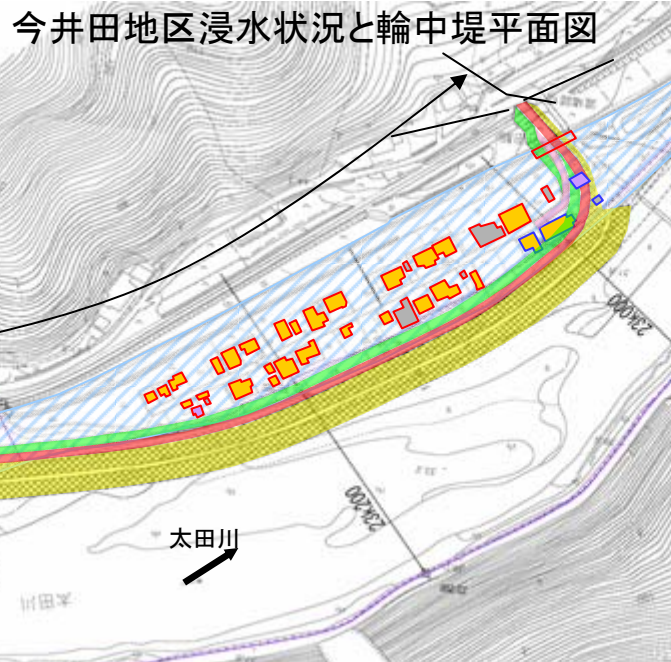
輪中堤方式により改修予定

事業効果

床上浸水+1.0m以上の家屋	15戸	→	0戸
床上浸水家屋	13戸	→	0戸 (2戸移転)
床下浸水家屋	2戸	→	0戸 (1戸移転)
浸水区域の解消			

凡 例

- 床上浸水家屋 (Yellow box)
- 床下浸水家屋 (Purple box)
- 事業所等の浸水 (Red box)
- 浸水区域 (Blue hatched area)
- 護岸 (Green hatched area)
- 堤防天端 (Red box)
- 盛土 (Green box)



完成後のイメージ